

令和4年7月1日

学校法人 ぜんりょう学園
専門学校 北九州自動車大学校
校長 籠谷 正 則

「自己評価及び学校関係者評価結果 令和3年度版」 報告

学校法人 ぜんりょう学園 専門学校 北九州自動車大学校は、令和3年度における自己点検・自己評価を実施したのち、学校関係者評価委員会を令和4年6月17日（金）に開催し、各評価項目についてまとめた結果を学校教育法、同法施行規則並びに専修学校設置基準における学校評価に関する規程に基づき「自己評価及び学校関係者評価結果 令和3年度版」として、ここに公開いたします。

学校関係者評価委員会のご意見を真摯に受け止め、本校の教育と運営についてさらなる向上を目指し、教職員一同、努力して参ります。今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

学校関係者評価委員名簿

氏 名	所 属 先
木下 伸二	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 指導部教育課
金丸 孝弘	株式会社ジャパン三陽 名古屋営業所
成重 哲	株式会社スズキ自販福岡 本社 サービス本部
宮本 達也	宮本商事
穂枝 浩志	本校同窓会副会長

(1) 教育理念・目標・人材育成像

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
1-1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	理念は学園創立者の建学の精神「自主独立と新開拓者精神（ノヴァフロンティア）」として示され、この精神に沿って、教育目標・育成人材像は、自動車整備に関する学術理論実施技術を指導教育し、人類社会の福祉に貢献する有能な技術者を育成することと明確に学則に定め、学生便覧等で教職員及び学生に周知徹底している。また、各学科における具体的な学修成果や学生が身に付けるべき資質・能力について、ディプロマポリシーを定め、本校ホームページに公表している。	4	現在の取組を継続する。	
1-2 学校における職業教育の特色は何か	実践的な自動車整備士を育成するため、実務経験豊富な多くの教員を配し、また、企業と連携した実習・演習を実施している。さらに、広い視野を持った自動車整備士を育成するため、ビジネスマナーやコミュニケーション能力を高めるソーシャル検定（JAMCA）、福祉車両取扱士などの資格取得に取り組んでいる。	4	企業と連携した実習・演習をさらに強化して行きたい。また、有用な社会人となるために必要な「社会人基礎力」とともに、「人間力」の養成にも努めたい。	
1-3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	近年、自動車技術の進化は目覚ましく、こうした技術に適切に対応できる自動車整備士の育成が望まれている。このような社会のニーズに対応するため、企業の協力を得ながら、学内での新型車技術講習会等を毎年実施している。今年度は、特にエーミング等の特定整備に係る講習も計画し	4	国土交通省が主体となって継続審議されている「自動車整備技術の高度化検討会」に設置されている「自動車整備士資格制度等見直しWG」では、自動車整備士の資格体系や養成課程の見直しについて議論が行	

	<p>ていたが、コロナウイルス感染対策の影響で実施することができなかった。次年度以降も先進安全自動車等の新技術に関しては、関係企業の協力を得ながら積極的に技術講習会を実施していく。また、本校の教育内容が、自動車整備業界で必要とされる技術者養成に適正かどうかのチェック機能を果たすため、毎年度開講した全科目のシラバスを公開している。入学者数減少に伴う長期的な将来構想については、昨年度教員組織内に新たに運営部を立ち上げ、主体的かつ計画的に募集活動を開始した結果、今年度はその成果が入学者増となって現れた。</p>		<p>われ、「自動車整備士技能検定規則等の一部を改正する省令」が令和4年4月に公布される。このことにより、令和7年4月より、二級自動車整備士養成の新教育課程がスタートし、「電子制御装置整備」に係る養成内容が含まれることになる。このことに対応して、教育内容（カリキュラムとシラバス）やそれに即した施設・設備の充実を図り、社会のニーズと本校の強みを熟慮した継続的かつ差別化できる将来構想を検討する必要がある。</p>	
1-4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	<p>学校の教育目標や育成人材像については学生便覧に明示し、学生や保護者に周知している。また、学校の特色や現状での将来構想については、学校新聞や本校ホームページに公開している。</p>	4	<p>現在の取組を継続する。</p>	
1-5 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	<p>年に2回、定期的に自動車関連企業からのニーズをヒヤリングし、その結果をシラバスに反映させることにより、育成人材像を改善している。また、インターンシップや企業と連携した実習・演習を実施することにより、教員及び学生は業界のニーズを肌で感じ取っている。</p>	4	<p>年々企業との連携が密になっており、様々な機会を設け、成果ある教育活動に発展させたい。一級4年生にはインターンシップを実施している。また、現在、1年生は希望者のみ、2年生は受入れ可能な企業へ依頼してインターンシップを実施しているが、その輪をさらに広げ、</p>	

			<p>低学年から実践教育を通じて学生自身が企業のニーズを汲み取れる環境をさらに整備したい。しかし、昨年から引き続き、令和3年度も新型コロナウイルスの感染予防の観点から、インターンシップの低学年への実施や評価委員会からの提案であった專業整備工場への学生派遣の検討を逸してしまった。次年度以降、コロナ禍の収束を待って検討を開始したい。</p>	
--	--	--	---	--

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・ 育成人材像を明確化するため、ディプロマポリシーを作成・公開しているが、学生への周知の徹底と社会的評価を踏まえた改善を検討したい。
- ・ 将来構想については、年度ごとの計画が立案遂行され、教職員には内容の周知を行っているが、長期的将来構想についても検討を重ねたい。
- ・ 全科目のシラバスを公開しているが、引き続き業界の意見を聞きながら、社会のニーズをさらに取り入れた授業内容に改善して行きたい。
- ・ 教育目標や育成人材像は、社会のニーズとともに大きく変化していくと考えられる。自動車業界は、電気自動車、自動車の自動運転化、並びに空飛ぶクルマなどの開発が活発化し、クルマの整備内容が大きく変化しようとしている。また、自動車整備業界では、「自動車整備士技能検定規則等の一部を改正する省令」が令和4年4月に公布される。これに伴い、二級自動車整備士養成の新教育課程が令和7年4月より開始され、数年後には、車載式故障診断装置を活用した検査（OBD 検査）も導入されることになっている。本校は、このような大変革の時代に向けた整備士を養成する教育機関として、監督官庁や整備業界の動向を注視しながら更なる教育内容の改善を図って行く。

(2) 学校運営

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
2-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	学校の目的、目標に基づいた学校運営方針は明確である。毎年度初めに、校長から運営方針や各部署への業務内容が通達され、また、運営部、教務課、学生課並びに進路支援センターから目標や職務分担が作成されている。これらのことは、教員会議を通じて全教職員に認識されると同時に活動の基軸となっている。運用についてもスムーズに展開できている。	4	現在の取組を継続する。	
2-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	運営方針に沿った事業計画を策定し、実行のための予算を作成している。	4	現在の取組を継続する。	
2-3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	本校を含む学園全体の運営組織は健全に機能しており、変更がある度に校務分掌一覧を配布している。意思決定機能は、学園では寄附行為により、また本校では学則等により、明確化されている。	4	現在の取組を継続する。	
2-4 人事、給与に関する規程は整備されているか	人事は就業規則により、給与は教職員給与規程、退職手当給与規程等により、整備されている。また、今年度より、業務に対するモチベーションアップや組織の活性化のために、教員を対象に「評価手当」、「超過担当手当」、「繁忙手当」を新	4	現在の取組を継続するが、教員に対する各種手当は、導入後 1 年が経過した。特に、評価手当は多岐にわたる項目について半期ごとに評価しているが、それらの項目が適正であるかどうか	これらの手当が実際に教員のモチベーションアップにつながっているかの確認も必要かと思う。

	たに導入した。また、それらに係る申し合わせ事項を作成し、教員に周知した。		かや手当の基準等を検証する必要がある。さらに、今後、国土交通省による新教育課程の実施に伴う教員補充及び教員の定年退職に伴う新任教員の採用について、その手順や周知方法などを申し合わせ事項等で整備し、教員間で情報共有できるように検討する。	
2-5 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	運営部、教務課、学生課、進路支援センター、事務局等の管轄部署を区分けして整備されており、それぞれの職務責任者が各部署とも連携を取りながら意思決定を図っている。財務事項については、理事会・評議員会を年に最低2回は開催し、財務安定化についての議論を行っている。これらの意識決定は、稟議が上がってきたとき、局長・校長・運営部長で協議し、時には理事長を交えて行うなど、そのシステムは整備されている。さらに、学校運営に関する諸問題や改善策は、定例あるいは臨時の教員会議で迅速かつ慎重に議論を行い、実行に移している。	4	現在の取組を継続する。	
2-6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	入学当初に諸規定等を記載した学生便覧を配布しており、常日頃より実習朝礼や毎週実施されるホームルーム等を通して法令遵守の重要性等を学生に指導している。また、1年次の学科「社会	4	現在の取組を継続する。	SNS に対する対応がしっかりできているようで良いと思う。

	<p>教養学」、3年次の学科「ビジネスマナー」にてコンプライアンス教育及びITリテラシー教育を実施している。昨年度評価委員から質問があったSNS利用上の注意点については、全学生に対して「インターネット利用に関するガイドライン」と題する資料を配布するとともに、SNS利用にあたっては著作権侵害、名誉棄損、プライバシーの侵害等法的に問題となり得ることに十分注意するよう呼び掛けている。なお、新入生には、入学時にSNSに係わる誓約書を提出させている。さらに、留学生には「留学生ハンドブック」を作成配布し、アルバイト条件など留学生として法令で定められた義務等を徹底的に指導している。</p>			
2-7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	<p>本校ホームページにおいて、学校概要やシラバス、職業実践専門課程の情報、財務状況等を開示し、積極的に情報公開を行っている。また日頃の活動内容についてもSNS等を通じて周知に努めている。</p>	4	現在の取組を継続する。	
2-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	<p>成績処理や出席管理は本校独自のシステムを構築し、迅速かつ正確に行われている。</p>	4	現在の取組を継続する。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・今年度より、教員のモチベーションを高めるための「評価手当」を導入した。この手当については、的確な評価ができるよう評価項目の見直しを行い、改善を図っていく。また、今後は学校運営等の状況を考慮した手当の基準等の見直しも行っていく。
- ・業務効率向上のために ICT 化をさらに推進する。
- ・本校ホームページや SNS を活用し、今後も積極的な情報配信に努めたい。

(3) 教育活動

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
3-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	教育課程の編成については、教育理念を踏まえ国土交通省の規程に沿って編成されている。また、実施方針等は校長・運営部長・各学科長らで策定し、教員会議に諮られている。さらに、「教育課程編成に関する規程」を定め、教育課程編成委員会の意見を反映させている。	4	定期的に見直しを行っており、特に課題を感じていないが、より良いものにしていくためには全教員が意見を述べやすい環境の整備、並びに、更なる意識の向上を目指したい。	
3-2 教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した時間の確保は明確にされているか	教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえたカリキュラムを編成し、各学科長・教務課が主体となって各科目のシラバスを作成し、その中で学習時間の確保を明確にしている。また、昨年度は実施できなかった学科期末試験前の休講期間を使用して、希望者及び担任から指名された学生を対象に補習授業を実施した。なお、昨年度と同様に、定められた時間内では学習到達目標に達しない学生については、学科再試験前に補習授業を実施した。	4	一昨年度に実施した学科期末試験前の休講期間を使用して補習授業を実施した。次年度も継続して実施し、効果を確認したいが、対象とする学生の選定や、無断で欠席した学生への対応などを検討したい。	
3-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	各学科の目標達成に向けたカリキュラムは、国土交通省指定の教育科目を踏まえて体系的に編成されている。昨年度同様に4年次は4限目終了後に放課することなく国家試験対策に充て、全員合格を達成した昨年度以上に、対策の時間を作ることができた。	4	4年次は有効に活用できている放課後の時間を、1年次においてもこの時間を有効活用し、成績下位者や理解するまでに時間を要する学生に対しての対策を立てていきたい。	

<p>3-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p>	<p>業界と連携した実習やインターンシップを実施し、キャリアアップに努めている。教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会での意見についても積極的に導入している。また、職業人としての能力を身に付けることを教育目標の一つとし、クラス担任を中心に学生指導を徹底している。</p>	<p>4</p>	<p>現在の取組を継続する。</p>	
<p>3-5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</p>	<p>企業及び業界団体から委員を迎えて教育課程編成委員会を年2回開催している。その中で、カリキュラムを検討し、シラバスに反映している。</p>	<p>4</p>	<p>現在の取組を継続する。</p>	
<p>3-6 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか</p>	<p>4年生にインターンシップを実施し、毎日、レポート提出を義務付けている。また、担当教員は定期的にインターン学生受入企業を訪問して実施状況の確認及び調整を行うとともに、学生に対し適宜指導を実施している。2年生を対象とした、企業から派遣された現役メカニックのプロ目線での実習のサポートを、今年度は2社にご協力いただいで実施した。</p>	<p>4</p>	<p>今年度は2社の企業にサポートいただけただけだ。調整が難しいところはあるが、普段の実習カリキュラムの中に、プロからのアドバイス等がいただけることは非常に有効であるため、次年度も是非実施したい。</p>	<p>現役メカニックに教わることは、学生にとってもいい刺激になると思う。</p>

3-7 授業評価の実施・評価体制はあるか	学生による授業評価は、前期と後期に年2回実施している。アンケート結果については、教員間で回覧し、相互評価することにより、各自の授業改善に生かしている。今年度より、マイクロソフトのフォームスを使用して実施した。アンケートフォームの作成には時間を要するが、学生の回答時間並びに集計作業にかかる時間は大幅に改善され、結果も見やすい形にできた。	4	フォームスを使用することによって、学生の負担を軽減することができた。Wi-Fi 環境も整備する予定となっているため、次年度以降も同様の方法で実施したい。	
3-8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	業界による外部評価は、学校関係者評価委員会により行われている。	4	学校関係者評価委員会にて評価をいただき、改善点を取り入れているので、特に課題を感じていない。	
3-9 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は、学則や教務規程によって明確に定めている。特に、卒業の際、学生が身に付けるべき資質・能力についても、ディプロマポリシーを定めて判定している。学生には学則及びその他関連規程を掲載した学生便覧を全員に配布し、各担当部署よりオリエンテーション等で周知徹底している。	4	1週間以内に補講が完了できない学生がいる。主な原因は学生の怠惰であるが、学生便覧に明記したことで、完了するスパンは短くなるなど、改善はされてきている。補講が必要な学生は特定されており、今後、担任を通じて指導をさらに強化するとともに、現在の取り組みを継続する。	

<p>3-10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>	<p>自動車整備士資格取得に向けたカリキュラムを編成している。今年度も、成績が思わしくない者に対しては、教員室内の常に教員の目が届く場所に机を配置し、対策を実施した。昨年度はコロナ禍の状況を勘案して案内をしなかったが、今年度は就職の際取得しておけば有利な資格については、夏季・春季休暇等を利用し、資格取得のサポートを行った。</p>	<p>4</p>	<p>昨年度の卒業生は、国家試験全種目合格を達成することができたが、引き続き高い合格率が維持できるよう、全教員で協力して対応していきたい。</p>	<p><u>課題と今後に向けての考え</u>の中で、『学生のその他の資格取得に対する意識の低下が著しい。』とあるが、学生の最大目標は整備士資格取得であるが残念である。学生のその他資格取得に対する意識が一番と思うので、根気強く学生の意識改革に努めてもらいたい</p>
<p>3-11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか</p>	<p>第一種養成施設の指定基準に準拠するため、資格や経験年数及び学歴等を満たした教員を確保している。また、一級未取得者であっても、上質な技術、高度専門知識資格を満たしている教員を確保している。</p>	<p>4</p>	<p>現在の取組を継続する。</p>	
<p>3-12 関連分野における業界等との連携において、優れた教員（本務・兼務含む）を確保しているか</p>	<p>新規採用を行う際、3-11 を満足する教員を関連分野の業界から紹介いただき、人間性や教育に対する意欲などを面接で確認することで、若くて優れた教員を確保している。</p>	<p>4</p>	<p>現在の取組を継続する。</p>	
<p>3-13 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導</p>	<p>整備振興会、マツダ、バンザイ、JAMCA などによる新技術研修は、毎年、順次教員が受講している。教員の指導力育成に関する研修は、JAMCA が主催して行われており、順次教員が参加している。</p>	<p>3</p>	<p>今年度も、ほとんどの講習が中止となったため、次年度講習が実施されるようであれば、積極的に教員を参加させたい。</p>	

力育成などの資質向上のための取組が行われているか	また、講習に参加した際の資料等は回覧し、全教員が目を通すようにしている。			
3-14 職員の能力開発のための研修等が行われているか	外部講師を招き、事務職員に対して学生募集に関する戦略について、定期的に指導をお願いしている。留学生や日本学生支援機構奨学金に関する研修会には、教員とともに必ず参加している。	3	今年度もコロナ禍の影響により実施できなかったため、次年度は、職員が先方に出向き講習や指導を受けさせたい。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・ 教員自身の一級自動車整備士の取得率が100%となるよう教員の意識改革を図って行く。また、授業の内容プラス人材育成に必要なと思われる経験知や暗黙知と呼ばれる教員の知識を、いかに学生に伝えていくかを引き続き全教員で検討して行きたい。
- ・ 事務職員に求める能力は多岐に亘る。今後とも継続して、能力開発に関する研修は積極的に参加させたい。
- ・ 企業側からの講師派遣実習または企業のトレーニングセンターへ出向いての実習が、学生・教職員に良い影響を与えている。今後も企業側とさらに連携して充実した教育活動の推進を図りたい。
- ・ 企業の方に実習サポートに入っていただくようになって2年目を迎え、学生にとっても、企業側にとってもメリットがあると思われる。現在はエンジン実習場の2年次の一部分のみに入っているが、今後は教育課程編成委員会のメンバーを中心に、さらに連携し充実した教育活動の推進を図るとともに、その他の年次にも入っていただける形としたい。
- ・ 国家試験対策については、計画から問題印刷までを学科長が中心となって行っている。二級については印刷部数も多いことから、全教員で担当を振り分ける等の工夫が必要な時期だと思われる。学科長を中心に、それぞれの負担が増えすぎないように、また、お互いをサポートできるよう全教員で検討したい。
- ・ 学生のその他の資格取得に対する意識の低下が著しい。近年では、中古自動車査定士は以前の半分程度の合格率となっている。社会に出て必ずしも必要となる資格ばかりではないかもしれないが、国家資格取得を目指す学校でありながら、資格取得に対する意識を持たせられていない点は反省し、全教員で資格取得の意識向上に努めていきたい。

(4) 教育成果

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
4-1 就職率の向上が図られているか	<p>就職率は毎年 100%である。就職斡旋は、学校に求職希望を提示した学生を対象に行っている。求人件数は 274 社と毎年増加しており、新型コロナによる影響はなく、自動車整備士に対する企業側の求人ニーズは、依然として大きいものを感じ取れた。今年度は、通常通り授業が始まり、入学して早い段階での工場見学が実施でき、自動車整備士の業務について理解ができる時間が取れた。夏季休暇中の企業説明会においても、後半コロナの影響で中止の企業もあったが、前年度よりも企業数的には多かった。企業講習も後期に入ってから 3 社ほど実施することができた。最終的な面接指導や書類作成に関する指導は、クラス担任だけではなく、全教員できめ細かく行い、就職率の向上を図っている。今年度もコロナ感染予防対策を徹底し、学内企業説明会を実施することにより幅広い視野を持つことができている。</p>	4	<p>卒業後の離職については、離職前や離職後に企業より連絡をいただくことも増えてきた。その場合は元担任から連絡をして本人にアドバイスをするようにしている。しかし、できれば離職前に学校としても対応ができるよう、連絡をお願いする。また、学校側が積極的に卒業生の離職の動向を把握できるようにするため、定期的な調査の実施を検討したい。就職活動時期が早くなり、就職に対する意識がまだ低い時期での企業研究の未熟さが、早期離職に繋がるため、就職時期に関して、企業とも相談したい。学生の仕事のイメージと実際の現場の状況のズレを少しでも埋めるために、我々、教員からも説明はしているが、やはり自分で体験してみることが大切である。そのため、春休みなどを使い、2, 3 日ぐらいの短い期間でインターンシップを実施していただき、会社説明会や工場見学会で</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業としても早期の離職は避けたいところであるが、実際の職場の雰囲気を経験し、より自分に合った企業を選ぶと良い。 ・採用試験実施時期を遅らせることについて、個人としては、学生にはじっくり企業を選んでほしいので、遅らせた方がいいと思うが、良い人材をなるべく早く確保したい企業としては、何らかの統一のルールがないと難しいのではないかと思う。 ・学生目線で見ると、採用試験時期は遅らせることが望ましいと思う。

			<p>はわからない社内の雰囲気を感じたり、先輩エンジニアに直接色々話を聞いたりすることにより、自分に合った企業なのかをよく考えた上で採用試験を受験するのが望ましいと思われる。このようなことから、本校としては採用試験実施時期を遅らせることを希望している。</p>	
<p>4-2 資格取得率の向上が図られているか</p>	<p>自動車整備士の資格取得については 100%合格を目指して、11 月から 3 月まで放課後受験予定者全員に対して全教員が「居残り対策」を実施し、資格取得率の向上を図っている。具体的に、二級でのクラス編成は習熟度別に 4 クラスとし、定期的に筆記試験を実施し、クラスを入れ替えている。国家試験の基本的傾向は変わらないので学生個人の理解度を把握した上で分野毎に理解させることに重点を置いている。この結果、令和 3 年度の一級自動車整備士の合格率は 84.6%であり、二級自動車整備士の合格率はガソリンが 98.6%、ディーゼルが 98.3%、三級二輪は 100%であった。</p>	<p>4</p>	<p>今後も一級及び二級自動車整備士資格については全員合格を目標に、受験対策の改善に努めたい。さらに、授業中においても資格取得を意識した指導及び対策を検討したい。</p>	

<p>4-3 退学率の低減が図られているか</p>	<p>退学の理由の多くは、遅刻・欠席しがちになり学業不振に陥り退学している。従って、遅刻・欠席する場合はクラス担任に理由を報告することを義務付け、欠席しないよう促している。また、欠席した場合の補講についても、早期かつ計画的に実施するよう指導している。成績不良の学生については、定期的にクラス担任と学科長が学生と面談する、場合によっては保護者も含めて面談し、勉学に対する意識向上や生活習慣などの改善をアドバイスしている。経済的な理由による場合は、日本学生支援機構の奨学金や企業奨学金を利用するよう勧めている。その他、進路のミスマッチングなどによる退学があるが、学校として、組織的、計画的に退学者の減少に努めている。成績不振の学生を対象とした期末試験前の勉強会を開講した。昨年同様、各学科長の教室巡回・居眠り注意。金曜朝礼での、気になる学生の状況報告を継続した。また、本年度新たに、月例の教員会議において、遅刻・欠席実態をデータ化した資料を配布し、クラス担任からの状況説明を受け、全教職員で情報を共有した上で学生指導に取り組んだ。このことにより退学率は昨年度 7.39%であったが、今年度 7.14%と、わずかではあるが減少した。</p>	<p>4</p>	<p>次年度も今年度同様、退学率の低減のために様々な取組を行っていき、退学率を 5%以下にしたい。そのために、学生と教員間の信頼関係をさらに構築して行くこと、また学生間での友人関係の悩みやトラブルなどを早期に察知する仕組みの構築などの検討を行い、退学率の低減を図りたい。また、社会的要因として、自動車整備士の社会的地位や自動車整備士資格取得の重要性の認知度が低いことが勉学を続ける上でネックになっていることも考えられ、大きな課題であるが、徐々に改善されてきている。入学時に自動車整備に興味がある学生が年々減少傾向にあり、興味がない学生に授業を通じて、いかに整備の楽しさを伝え興味を持たせるかということが重要になってくる。</p>	<p>車に興味を持ってもらうきっかけとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ e-sports (レースゲーム) ・ ラジコン (電動・エンジンカー) ・ カート大会 ・ サーキット同乗体験 <p>また、遊びを入り口に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カート、ラジコンなどで車を操る楽しみを知ってもらう ・ ヤリス Cup 等モータースポーツ見学(参加販売店に協力してもらう) <p>自動車整備に興味を持つ学生の育成について、先生方も努力していると思うが、整備の楽しさの前に“車”の楽しさを伝えることが増えると良いのではないか。</p>
---------------------------	---	----------	--	---

<p>4-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	<p>卒業生全員の活躍や評価を把握するのは難しいが、企業との情報交換によりそれらを把握するよう努めている。その中で技能競技大会への出場や離職の状況も知ることができつつあるが、全体像の把握までには至っていない。企業には卒業生の活躍状況がわかれば教えて欲しい旨はお伝えしている。</p>	<p>3</p>	<p>卒業生の活躍を把握するためには、企業との連携を密にする機会を多くする必要がある。また、企業へ依頼し、卒業生の状況について聞き取り調査も行う必要がある。さらに、卒業時に卒業生自ら活躍ぶりを本校に報告するようお願いする。同窓会の協力もお願いしたい。</p>	
<p>4-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか</p>	<p>企業に対して卒業生の仕事ぶりや評価などについてヒヤリングを行い、仕事の内容やどのような能力を身につけておくべきかを授業の中で各教員が適宜学生に伝えている。また、可能な企業には説明会の時、卒業生に同行してもらい、仕事内容や整備士としてのやりがいなどについての話をお願いしている。昨年に引き続き、企業と連携し、2年生に対して、企業より現役メカニックを派遣していただき、プロ目線で実習のサポートをしていただいた。昨年度、キャリア形成のための外部による講習会を検討するとしていたが、コロナ禍のため検討できていない。</p>	<p>3</p>	<p>卒業生と接することにより、学校教育においてどのような能力を身につけておくべきだったかなどについて聞き取り調査を行うことを検討する。また、キャリアデザインの構築や離職を防止するため、外部講師によるキャリア教育の実施を計画したい。</p>	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・就職率は100%を維持しているが、就職後の離職率が増加している。企業から見た離職の原因などについて調査し、離職率増加に歯止めをかけたい。
- ・今年度は、二級ガソリンが98.6%、二級ジーゼルが98.3%、一級筆記においては84.6%と全員合格とはならなかったが、高い合格率を維持することができた。

次年度は昨年度同様にすべての試験で100%合格ができるよう、一層の改善工夫が必要である。

- ・退学率低減については、ここ数年の大きな課題である。今年度の退学率は7.14%で、昨年度と比較して退学率が0.25%減少した。人数としては去年より1名増加しており、理由としては留年、休学していた学生の退学が加わったこともあるが、学生の整備士に対する興味の低さが一因と思われる。退学理由は、遅刻・欠席による勉学意欲の衰退と経済的事由が目立っているが、それだけではなく、学生に授業を通じて、いかに整備の楽しさを伝え興味を持たせるかということが重要になってくる。今後も、退学率5%以下を目指して、自動車整備の社会的意義や楽しさを伝えながらも職と教育の両立を検討し、魅力ある人材の育成に努めることが必須課題である。

参考資料：令和3年度における退学率、自動車整備士合格率並びに就職率

1) 退学率

7.14%《退学者14名/在籍者196名》(2020年度7.39%)

2) 自動車整備士合格率

一級筆記 84.6%《合格者11名/受験者13名》(2020年度100%) 2年次修了時に全員二級ガソリン、ジーゼル取得済

二級ガソリン 98.6%《合格者68名/受験者69名》(2020年度100%)

二級ジーゼル 98.3%《合格者59名/受験者60名》(2020年度100%)

3) 就職率

就職希望者に対して100%《就職希望者65名》(2020年度100%)

(5) 学生支援

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
5-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	<p>本校では「進路支援センター」を開設し、職業指導の基本方針、対策、情報収集、求人開拓のための企業訪問等を積極的に展開し、多数の求人獲得に努力している。その結果集められた資料は、就職を希望する本校学生全てがスマートフォン等でQRコードを読み取り、自由に閲覧し就職活動の指針となるようにしている。また、クラスによって指導内容に差が生じないよう担任への就職活動取組指導に努め、担任及び進路支援担当教員が面接指導や書類作成に関してきめ細かく指導を行うよう支援体制を整えている。企業説明会については、開催形式を変更し、各企業が魅力をアピールできる態勢を作り、希望先への就職活動支援に努めている。</p>	4	<p>早期離職者減少のためにも、企業とのミスマッチをできるだけなくせるように企業研究をしっかりと行うよう指導に努めたい。</p>	<p>企業が早期離職者低減のために取り組んでいることとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入社員研修の見直し ・配属前の教育期間の見直し ・外国人スタッフ受入れ店舗への事前研修 ・サービススタッフの給料、手当の処遇改善 <p>企業とのミスマッチを未然に防ぐために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が各企業の風土への理解を深め、その学生に合った企業かどうかアドバイスする ・在学中に沢山の企業を訪問し、現場を体験する。見学するだけでも、時間が長ければ、どんな雰囲気かが分かるのではないか。

5-2 学生相談に関する体制は整備されているか	学生からの相談は、主にクラス担任が対応するが、相談内容によっては複数の教職員が関わるようにし、教職員間の情報共有を密にしている。また、セクハラに関する相談も女性教職員が担当し、気軽に相談できる窓口も用意され、女性教職員採用で女子学生の相談体制も整っている。	4	現在の取組を継続するが、特に、人間関係に関する案件については慎重に対応する必要がある。	
5-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	入学金の減免、授業料の減免、日本学生支援機構等の奨学金制度、企業奨学金制度など学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能している。また、令和2年度から高等教育の修学支援制度に係る給付型奨学金（授業料等減免策を含む）も導入し、経済的な理由による退学者の減少に努めている。さらに、令和2年度に引き続き令和3年度における新型コロナウイルスに対する各種補助金の周知および申請手続きを積極的に行っている。	4	今後も給付型奨学金や補助金等の周知および申請手続き等を積極的に行い、経済的な理由による退学者を出さないように努めたい。また、貸与型奨学金の適正額（借りすぎ等）について、一人ひとりに寄り添い学生にとって最も良い金額に設定するように指導している。	
5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	年に一回の健康診断を行い、学生の健康管理は適切に実施されている。再検査が必要な学生に対しては再診することを指導し、結果の提出をお願いしている。	4	現在の取組を継続する。	
5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	課外活動は、授業時間数が多い中では、十分に活動できているとは言えない。学校として場所（工房）と予算を提供する支援体制は整えている。	3	学生が自主的に課外活動を提案してきた場合、積極的に支援していきたい。課外活動は同好会顧問のボランティア精神によるところが大きいため、今後は顧問への支援体制強化を検討したい。	

5-6 学生の生活環境への支援は行われているか	生活環境改善の一環として、遠隔地出身者について指定民間宿舎を優先的に紹介し利用させており、支援は行われているが、近年、一般のアパートでの一人暮らしが増加しており、規則正しい生活が送れるようクラス担任を中心に支援・指導を行っている。	4	クラス担任を中心によりきめ細かな支援・指導を行いたい。	
5-7 保護者と適切に連携しているか	中間と期末の試験結果を保護者に郵送し、保護者からも学生の生活環境の改善指導をお願いしている。さらに、必要に応じて「電話連絡」により学生の状況を保護者に報告するなど、保護者と学校が情報共有することに努めている。また、2019年度より導入した出席管理システムを、保護者との連携、学生指導に有効利用している。	4	可能な範囲において十分な連携が図られており、特に課題を感じていない。	
5-8 卒業生への支援体制はあるか	卒業後、何等かの都合により離職した卒業生に対する就職支援を準備しており、利用者は増加する傾向にある。同窓会事務局を教員室内に設置し、校内にて定期的に同窓会役員会を実施し、総会の案内事務も行っている。また、卒業後の状況については、就職先企業の人事担当者や先輩OBからの報告連絡及び卒業生本人からの相談等に応じるなど、フォローアップに努めている。さらに、卒業生への活動報告や連絡事項については、本年度、同窓会専用のホームページを開設し、本校ホームページと併せて情報を発信している。卒業後、二級自動車整備士の国家試験を不合格となっ	4	現在の取組を継続する。	

	た場合、希望者に対して学内で受験勉強を指導している。			
5-9 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	「進路支援センター」を中心に企業ニーズの聞き取りを行い、それをカリキュラムに反映させている。また、職業実践専門課程として企業に授業を実施していただき、企業ニーズを直接学生に伝える企業講習も増やしていけるよう取り組んでいる。	4	企業が気軽に企業ニーズを発することができる体制作りを継続検討する。また、集められた企業ニーズをいかに授業に取り込んでいくかの工夫をさらに積極的に検討する。	
5-10 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	高校に出向いて、自動車整備士の仕事や整備士業界の動向を紹介するとともに、自動車整備の模擬授業も展開している。また、高校訪問を行い、高校側が望む内容で職業教育を実施できるよう取り組んでいる。	4	現在の取組を継続する。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・課外活動は、時間的余裕もなく、学生自ら課外活動を行いたいとの要望がほとんど挙がらず、教員主導のカート走行会等、散発的に活動している状態である。今後は、学生が中心となって取り組める活動、およびその環境整備を行いたい。
- ・社会のニーズを踏まえた教育環境を整備するため、企業が気軽にニーズを発することができる体制作りを継続検討する。また、集められた企業ニーズをいかに授業に取り込んで行くかの工夫をさらに積極的に検討する。
- ・就職活動を含めた学生相談をよりきめ細かく行っていきたい。
- ・給付型奨学金や補助金等の周知および申請手続き等を積極的に行い、経済的な理由による退学者を出さないように努めたい。
- ・卒業生支援については、令和2年度、同窓会に同窓会専用のホームページを開設し、情報の双方向通信ができる環境を整えていただいた。発信情報の内容等本校におけるホームページの効果的運用については、今後、同窓会理事会等を通じ検討していきたい。

(6) 教育環境

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
<p>6-1 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p>	<p>今年度は、教育棟を全面改修並びに一部新築し、3階建校舎、全11の学科教室を新設した。新校舎は、高断熱構造で空調及び照明設備等も全て最新とし、快適で良好な教育環境を図りつつ、省エネルギー対応とした。各教室には、大型モニター、無線LANを設置しICT環境を整えた。教室前方壁面には、無反射型特大ホワイトボード設置、学習机は全て個人机とした。また、学生からの要望を取入れ、全階に男女トイレを設置。衛生面やユニバーサルデザインの観点から、全て洋式化し、床は乾式化した。実習棟は、実習場1階の床塗装の劣化が目立ち始めたため、年度末に全面剥離再塗装を行った。実習用教材として、日産自動車よりノート e-power、SUBARU よりフォレスター、各1台の先進安全自動車の提供を受けた。また、SUBARU からはスキャンツール用の専用ソフトの提供も受けている。これらの教材を使用して特定整備における自動運行装置等の点検・整備の教育に有効活用する準備を進めている。また、二輪車コース実習用教材としてスズキ車3台を追加導入した。実習車両は、本年度の入替え計画はなく、提供を受けた上記2台を含む四輪車50台(ガソリン車、ジーゼル車、ハイブリッド車、電気自</p>	<p>4</p>	<p>デジタル化教材及び映像教材等のソフト面での教育環境が不足している。プレゼンテーションツール等を活用し学習効果を高める授業を実施している教員もいるが、全体での共有・活用はできていない。非対面形式でのオンライン授業への対応も充分ではないため、次年度は、全教員にタブレット型端末を配給し、ICT機器の効果的な活用について、コンテンツ作成(導入)を含め、教務課を中心として全教員での取組みを推進する。昨年度同窓会より寄贈された共用工具については、その有効性が検証できたため、次年度以降各実習場に同等の工具を計画的に導入していく予定である。</p>	<p>タブレット型端末は、教育現場でどう活用するのか。</p>

	<p>動車、燃料電池車) 及び、追加導入したスズキ車 3 台、ハーレーダビッドソン・ジャパンからの貸与車両 7 台を含む二輪車 47 台を保有し教材として活用している。実習用機械設備及び教材等については、本年度 1 月に、九州運輸局の定期立入検査を受け、第一種養成施設の指定基準を満たし、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されていることが確認されている。新型コロナウイルス感染対策として、サーマルカメラ (タブレット型非接触体温計) を 1 台追加導入し、計 3 台のカメラによる検温体制を整備、足踏み式の消毒スタンドも 10 基導入して校内での感染対策を徹底している。また、昨年度同様、感染予防対策の一環として、校内駐車場を整理開放し自家用車による通学を推奨した。昨年度、評価委員会よりご意見をいただいた、「ハイブリッド・バッテリーの脱着作業における安全性の確保」については、当該実習の対象が、「電気自動車等の整備業務に係る特別教育 (校内実施)」受講済みの 3、4 年生が主体であり、作業の安全性は確保されている。同一車両での多数回の脱着作業 (メーカー想定外) による構成部品の劣化・損傷による危険性についても、特別教育にある基本を遵守することにより安全は確保できるものであると認識しており、基本を徹底することに注力している。</p>			
--	--	--	--	--

<p>6-2 学外実習・インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか</p>	<p>一級課程のインターンシップは、第一種養成施設指定基準として明確に定められており、3-6 で述べたような教育体制を十分に整備し、確実な学習成果を上げている。二輪自動車整備士コースは、学外実習として指導教員が引率して自動車学校へ行き、実際に使用されている二輪車の整備・点検を行っている。海外研修は情勢を勘案し本年度は実施していない。</p>	<p>4</p>	<p>一級課程のインターンシップについては、基本的に各学生の就職内定先へ受入を依頼している。企業側の経験値も増し、事前調整等の業務負担は軽減してきている。しかし、実際に学生を受入れる事業場の違いによる体験実習内容の差異は依然として大きく、指導担当教員による訪問指導及び受入側とのコミュニケーションは欠かせない。本年度は、北九州市内での実施が多かったため、同一事業場への複数回の訪問を実施できた。しかし、今後、学生数が増え、かつ、実施場所が広域になった場合の対応が課題となる。事前準備、定期巡回指導及び調整等の企業対応可能な教員を増やすことにより対処する予定である。海外研修は新型コロナ感染の状況を勘案しながら、計画していきたい。</p>	
--	---	----------	--	--

6-3 防災に対する体制は整備されているか	災害時の連絡体制については、緊急連絡放送や避難経路・避難場所を各教室に掲示することで対応している。緊急時の連絡体制は学生にも周知しており、また、消防署と連携し、学生も含め学園全体で訓練を毎年実施している。	4	現在の取組を継続する。	
-----------------------	--	---	-------------	--

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・一級自動車整備科入学者増加への対応（3、4年次の学生在籍数増加）として、一級・二級の各学科各学年における使用実習場の再配置を検討しなければならない。3、4年次の実習は、高度教育・即戦力育成の観点からも、一教材に対し少人数（1～3人）での実習が望まれるため、異なる実習内容（実習場）の組み合わせによるローテーション制を検討し導入する。（既存の施設・教材・人材の効率的有効活用）
- ・本年度11月、国土交通省は、自動車整備士養成施設を対象に仮想現実（VR）などデジタル化教材への支援の導入を目指すことを発表している。自動車整備士育成における教材は、資格試験の関係からも、自動車整備振興会発行の紙ベースの指定教本に依存しており、市場におけるデジタル教材も数少ない。本校においても、前述の教本を中心に教育を実施しているが、時代の変化、すなわち、自動車の高度化・多様化、学生側の変化とともに、教育の効果が期待できなくなっている現状がある。自動車を学ぶ側の変化と自動車技術の進展に伴った、「より映像的な、より動的にイメージできる教材」が必要である。
- ・ICT利活用教育の運用における支援部署を本校内に立ち上げることは現状無理ではあるが、導入時に障壁となり得る、「教員の理解」及び「教員のICT活用スキル不足」を解消するために、次年度全教員にiPadを配給し現場教育でのICTスキルの向上に取り掛かる。
- ・防災に対する体制は、消防署立会いのもと学園全体で実施しているが、旧教育棟の解体後（令和4年5月予定）、学園全体における災害発生時の具体的な行動基準を定めた災害対応マニュアルを見直し、全教職員が認識しておく必要がある。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	具体的な取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
7-1 学生募集活動は、適正に行われているか	<p>運営部が中心となり、募集計画素案を協議し、教員会議での審議・報告により方向性の共有や計画実施を進めている。また、募集活動全般を効率的に実行するため、教員室に入試課員を配し、従来から存在している各制度の見直しを行うなど環境の変化に適応しながら状況を分析し、学生募集活動は適正に行っている。本校ではオープンキャンパス（OC）に参加した高校生が受験するケースが多いので、OCにおいて本校の魅力や自動車整備士の社会的意義などを伝えられるように工夫している。今年度もパンフレットのコンセプトと同調するように本校ホームページのリニューアルを行い、引き続き動画配信も含めて本校の情報をわかりやすく閲覧者に伝えられるようにした。昨年度からは遠方地域の会場及び校内ガイダンスにも参加し、少しずつではあるが着席者数が増え、OCへも参加してくれるようになってきた。また、職員による高校訪問の頻度を増やし、高校教員からも少しずつ顔を覚えてもらえるようになった。なお、留学生の受入を平成30年度より実施しているが、昨年度より入学予定者の5%前後を留学生受入人数としている。また、初めての試みとして、山口県の富士商ドームにて「山口県メカニック&モーターSHOW」と称した体験型のモーターSHOWを実施した。コロナ禍の影響もあり、</p>	4	<p>今年度のOCについては、参加者の満足度や歩留まり率など、一定の成果が得られた。また、本校ホームページやパンフレット、DMを見てOCに参加してくれる例や、直接入試に繋がった例もあった。入学予定者も今年度に比べて30%程度増える見込みである。次年度に向けては、体験実習内容のブラッシュアップ、及びOCに参加してもらえるよう努力・工夫していきたい。山口県のイベントについては、校外からの評価が高く、2回目開催の要望が多くあった。校内からは、会場での暑さや準備の面などで反省点があったため、次回開催については、今回参加した企業に協力を得て実行委員会を発足し、実施の是非や、方法などを検討することとなった。</p>	<p>HPを拝見した。“体験型実習”は好印象である。</p>

	大々的に本校から動員を呼び掛けることは自粛したが、新聞やテレビなどの地元メディアに取り上げていただき、予想を超える来場者があった。来場者の中には、運輸支局長や自動車販売協会連合会の方も見られ、本校の知名度向上に繋がったと思われる。			
7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	教育成果である資格取得状況や就職状況は、志願者が専門学校を選択する上で大変重要な判断材料であるため、教職員が志願者や各高等学校でガイダンスを実施する際に正確に伝えている。また、このことは、本校ホームページでも情報を公開している。さらに、今年度も教員によるガイダンス実施は、一部の教員ではなく、他の教員も実施できるよう養成を行っている。	4	現在の取組を継続する。	
7-3 学納金は妥当なものとなっているか	高騰している諸経費や安全・環境性能が著しく進展している自動車技術に対応する高度な教育環境を整える目的や、消費税増税に伴う諸経費の増加により、昨年度入学生より入学金および授業料を変更した。2年制及び4年制ともに金額変更前から在学中の校納金総額が40,000円上昇したが、入学金は100,000円減額し、入学手続き時の経済的負担を軽減するようにしており、学納金は妥当なものとなっている。	4	現状を維持するが、次年度行われる予定の整備士資格の見直しによるカリキュラム変更や、それに伴う教材の補充、物価等の状況を踏まえた学納金の見直しは、今後とも引き続き検討したい。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・ 福岡県専修学校各種学校協会や高等学校進路指導研究会による取り決め事項等を遵守した上で、志願者が適切な進路選択が行えるよう、パンフレットや進路情報企画への掲載、本校ホームページでの情報公開、オープンキャンパスの開催と内容の工夫、高校ガイダンスへの教職員派遣などにより、さらに広く情報提供を行っていく必要がある。
- ・ 自動車は国の基幹産業であり、その安全と安心を確保するためには自動車整備士の存在は不可欠であるが、近年慢性的に整備士は不足している。整備士の不足をアピールするとともに、先進技術に対応するメカニックの重要性を強くアピールし、積極的な募集活動を行っていききたい。
- ・ 新高校3年生に対しては、二輪コースが九州中四国で唯一のバイク専門コースであることの強みを生かし、九州中四国地域に募集活動を展開したい。しかし、次年度行われる予定の自動車整備士制度の見直しにより、一級及び二級の自動車にも二輪の内容を含む見込みとなっていることから、二輪コースの存続については検討していく必要がある。
- ・ 教員によるガイダンス実施は、一部の教員ではなく、他の教員も実施できるよう養成を行っており、引き続きその取組を継続し、多くの教員が対応できるようにしたい。
- ・ 昨年度より、学生募集の体制を大幅に見直し、今まで取り組んだことの無かったことにも積極的に取り組んできた。その結果、コロナ禍の状況下において次年度入学予定者は今年度を大幅に上回る見通しとなった。今後もオープンキャンパスの質的向上や、積極的なガイダンスへの参加、教員の学生募集に対する意識の向上に取り組んでいきたい。
- ・ 今年度の学生募集については、次年度入学予定者が30%増となり、入学者が100名を超えるのは8年ぶりとなる見込みであり、大きな成果が得られた。しかし、このような結果が今年度のみにならないよう、内容を精査し、次年度以降も継続できるよう全教職員で取り組んでいく必要がある。

(8) 財 務

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
<p>8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p>	<p>一切の負債を抱えておらず、財務基盤については現状では安定しているといえる。しかしながら、学生からの学納金で学校運営経費が十分に賄われていない。運営経費の中で大きな割合を占める項目は人件費である。財政基盤を安定化させる手段は、人件費削減と入学者数の増加を図ることである。しかし、現状では適正な人員で各種業務が実行されており、人件費削減は困難である。従って、入学者数を増加させることにより、収入を増加する必要がある。そのため、運営部を中心として、教職員協力の下、土日のオープンキャンパス開催、多数の高校へのガイダンス実施、高校生へのDM発送などを積極的に行った。その結果、次年度の入学予定者は、今年度を大きく上回る予定である。特に、一級自動車整備科（4年制）の入学者が増える予定であり、このことが在学者数を今後とも押し上げ、財政基盤が安定化していくものと思われる。支出の面からも財政安定化のため、管理的経費の見直し、具体的には機械警備の契約金の減額変更・固定カメラ契約金の減額変更・土日祝日の警備員を派遣会社契約から直接雇用を行うなどの経費節減に取り組んでいる。</p>	<p>3</p>	<p>一級自動車整備科への入学者が近年増加してきており、次年度は二級自動車整備科の入学定員を削減し、一級自動車整備科にその分を上乗せする。今後、より財政の安定化に向けて、募集活動を積極的に行うことにより一級自動車整備科での60名以上の入学者を確保するとともに、退学率減少の対応策を検討する必要がある。また、人件費は、学校運営経費の中で大きな割合を占めるが、一級自動車整備科の入学者増、国土交通省の自動車整備士制度の改正、並びに社会のニーズなどを見据えた適切な学校運営を行うため、時期を見て新規教員の採用を考え、学校運営に支障が出ないようにする。さらに、学生募集を担当している職員1名が退職する。現在、主として3名が担当しているが、財政基盤の安定化を図る意味でも人員補充が急務である。ここ数年来、収支が赤字であるため、現在の支出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一級自動車整備科への入学者が増えることは良いことだと思うが、一級自動車整備士試験の難易度は十分理解されているか？ ・一級自動車整備科への進学者の増加に、教員側はしっかり対応できる体制になっているか？

			内容をさらに精査し、経費節減に努める。現在、校舎増築を行っており、今後、このための減価償却額が加算され、さらに赤字が膨らむことが予測される。従って、これらを解消し、財政の安定化を図るための学生募集戦略をより推し進める。	
8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	毎年度3月までには次年度予算を立て、収支計画を作成している。収支計画の中で、ここ数年、赤字が続いている。長期的に見てこのままでは財政基盤は先細りとなるが、現状での支出計画は妥当なものとなっている。	3	現状では、現在の取組を継続せざるを得ないが、8-1 で述べたように、財政安定化のため、在学者数の増加を目指し、学生募集と退学率低減に全力を注ぎたい。	安定的な収支のためには、毎年何名ぐらいの入学者が必要なのか？
8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	顧問税理士の指導の下、定例の会計監査を適正に実施している。監査で指摘を受けた際には直ちに改善を行っている。	4	現在の取組を今後も継続する。	
8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	毎年度の決算については、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録等を本校ホームページに公開している。	4	現在の取組を今後も継続する。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・ 財政基盤の安定化に向け、入学者の確保、特に次年度以降も 4 年制の一級自動車整備科の入学者数を増やすとともに、二級自動車整備科からの転科を推奨していく。また、退学者の更なる低減にも努めていきたい。
- ・ 一級自動車整備科の入学定員増、国土交通省の自動車整備士制度の改正、並びに社会のニーズを見据えた適切な教員体制の見直しを行う。

(9) 法令等の遵守

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
9-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令や設置基準、監督官庁の許認可などの届出等は適正になされ、それらについては遵守と適正な運営を行っている。	4	法令遵守の取組は信頼の基盤であるので、法人事務局や教育現場においても現在の取組を今後も継続する。	
9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人データの電子記録の取り扱い、紙面による情報の漏えい防止等学校が有する個人情報の取得や利用は、作成したプライバシーポリシーに則り適正な管理を行っている。	4	現在の取組を今後も継続する。	
9-3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	学校や各教員を対象に自己点検・評価を実施し、毎年見直しを行っている。その内容については学校関係者評価による検証も行っている。抽出された問題点は改善し、本校の健全性を保っている。	4	定期的に確認することにより、結果として自己点検・評価のレベルアップに繋がっているため、今後も継続し、精度を向上させていきたい。	
9-4 自己評価結果を公開しているか	本校ホームページにおいて、自己点検・評価ならびに学校関係者評価の結果を毎年7月に公開している。	4	現在の取組を今後も継続する。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・自己点検・評価については毎年見直しを行い、結果として多くの項目の改善に繋がっているため、今後も現在の取組を継続する。
- ・学校関係者評価においても継続効果が表れており、良い方向に進んでいるため、今後も現在の取組を継続する。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を積極的に実施しているか	今年度も新型コロナウイルスの影響で実施できなかったが、平成29年度より学園祭において『北自大モーターフェス』と称し、国産車・輸入車ディーラーから様々な車両を出展いただき、学生だけでなく地域の方々にも車両を見学していただける機会を設けている。また、自動車整備士国家試験に試験会場として教室を貸し出し、ハーレーダビッドソン・ジャパンやボッシュ、ネッツトヨタ北九州などには講習会会場として実習場などを貸し出している。	4	現在の取組を継続する。	
10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	年2回の献血活動を行っている。また、北九州市の「まち美化キャンペーン」に全学生が参加し、地域の清掃活動をしている。	4	現在の取組を継続する。	
10-3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受諾等を積極的に実施しているか	本校への入学者増のために、提携高校を対象に、高校生を本校に招き、本校施設を使用した体験授業や電気自動車等の整備業務に係る特別教育の講習会を実施している。また、福岡県自動車整備振興会の技術講習を北九州分教場として受諾している。隔年で実施される、北九州市消防局の火災調査係の職員に向けた自動車の構造・車両火災等についての講習を、今年度も依頼を受け先方施	4	提携高校在校生を対象にした体験授業を継続、発展できるよう努める。今年度は、消防局や小学校から講習等の依頼を受け実施した。既に次年度に向けて、これまでとは違った内容での講習を消防局から依頼を受けており、自動車を通して今後さらに地域に貢献できるよう努め	地域貢献として、電気自動車の充電スタンドを設置する。

	<p>設にて実施した。さらに、若園小学校初めての試みとして実施されたキャリアガイダンスの依頼を受け、まん延防止措置により直前で延期、オンラインでの実施となったが、4年生・6年生を対象に自動車整備士の仕事をPRした。</p>		<p>ていきたい。</p>	
--	---	--	---------------	--

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・学校の施設貸出等は地域や業界への貢献の一環として、今後も積極的に行っていく。
- ・年2回実施している献血活動では、学生に積極的に参加してもらっており、今後も継続していきたい。

(11) 国際交流

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
11-1 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	日本での自動車整備士の人材不足を補うことと、東南アジアにおける日本車の進出に伴い母国で必要とされる自動車整備士の養成を目指して、平成30年度に9名の留学生を受け入れた。しかし、今後の留学生受入れ戦略は、学生数確保の手段とするのではなく、あくまで世界各国で通用する優秀な自動車整備士の育成に力点を置く。このため、2019年度以降の入学試験合格者数は3~4名に絞っている。令和4年度留学生入試は、日本語能力に問題があり、受験者全員を不合格とした。このため、令和4年度入学予定者は0である。なお、本校学生の海外派遣は当分の間実施しない。	4	初めて留学生を受入れて4年が経過した。入学当初の日本語能力不足をできるだけ解消するため、本校での日本語入学試験の最低合格点を引き上げたことにより、日本語能力・勉強意欲・生活態度などに問題がある留学生は現状ではない。今後、留学生の教育や生活の指導が教職員一丸となって推し進められる体制の構築をさらに進める。	
11-2 留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な体制が整備されているか	教員室内に国際交流室を設置し、留学生の責任者と担当職員を配置している。この交流室での業務は、在留資格更新や資格外活動に関して適切な指導を実施するとともに、毎日留学生が登校していることを確認し、欠席した場合はクラス担任がその日に電話連絡するなど、適切な在籍管理の体制を整備している。	4	現在の取組を継続する。	

<p>11-3 留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか</p>	<p>留学生の専門科目に対する学修は、教員全員が各担当科目の専門用語を中心に毎週水曜日の放課後に補講を行うことによって、ある程度補完している。また、1年次の定期試験には漢字にルビを振り、問題を理解して解答できるように努めているが、2年次は自動車整備士の国家資格取得対策として、ルビ振りは禁止している。留学生の入学手続きが完了した際、自動車に関する基本的な漢字を習得させるため、入学前トレーニングのテキストとその課題を配布し、解答を提出させ、添削を行っている。入学式直前の4月上旬には、本校の学則や守るべきルールについて、入学前教育を実施している。留学生の生活指導は、クラス担任を始め、国際交流室の職員がその任に当たっている。特に、アルバイトは夜10時までとし、定期試験において成績不良となった留学生には、アルバイト時間を半減させるか、禁止する措置を取っている。下宿先は、本校の指定民間宿舎を職員が斡旋している。さらに、留学生が快適で有意義な留学生活が送れるよう、学校内外の手続きや、留学生として知っておくべきこと、役立つ情報などを掲載した「留学生ハンドブック」を作成・配布している。なお、留学生に配布する書類については、できるだけ漢字にルビを振っている。</p>	<p>4</p>	<p>今年度は1, 2年生ともに各クラスの留学生数は3名であり、教員の留学生に対する学修指導や生活指導の負担はほとんど生じておらず、次年度以降も現在の取組を継続する。</p>	
--	---	----------	---	--

<p>11-4 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</p>	<p>留学生は、二級自動車整備士の国家資格取得に向けて勉学に励んでいる。この資格を取得することにより、企業への就職が可能となり、国内での評価も高まるものと考えられる。そのためには、専門科目の修得はもちろんであるが、日本語能力試験の N2 レベル取得を留学生全員に義務付けている。今年度の全留学生 6 名の中で、1 名が N1、4 名が N2 を取得している。就職指導は、進路支援センターとクラス担任がマンツーマンで行い、卒業予定者 3 名全員の就職先が決定している。このことは企業において、留学生に対して高い評価が得られたものと考えている。さらに、令和 2 年度の二級自動車整備士国家試験に関しては、日本人学生とともに留学生も対象に 1 月から特別指導を毎日行った結果、3 名中 3 名全員が合格した。</p>	<p>4</p>	<p>今年度卒業予定者の 3 名は、日本語能力不足により二級自動車整備士の国家試験に不合格が懸念される留学生はいない。しかし、専門知識が不足している者もいるので、早い時期から留学生のみを対象とした国家試験の受験対策指導をさらに強化したい。そして、次年度以降も合格率 100% を目指したい。</p>	
-------------------------------------	---	----------	---	--

自己評価点数 4 : 適切、 3 : ほぼ適切、 2 : やや不適切、 1 : 不適切

課題と今後に向けての考え

- ・ 令和 3 年度は、2 年生 3 名の留学生が卒業し、入学者数に対する卒業率は 100% であった。1 年生は 3 名が入学し、全員が進級した。次年度は、教育体制や在籍管理をさらに強化し、今年度と同様な成果を上げたい。
- ・ 漢字圏ではない留学生の最大の課題は、漢字の読み書きである。このことについては、時間をかけて習得させるほかないものと考えている。
- ・ 日本語能力試験 N2 全員合格と二級自動車整備士の国家資格全員合格に向けた更なる受験対策を検討する。
- ・ 卒業予定者全員が就職することができた。次年度も就職率 100% を目指して、就職指導に力を入れていく。